

2016 年度日本文化体験プログラム（禅寺体験などを中心として）

Japanese Culture Experience Program 2016 (Activities with Local Residents at a Zen Temple)

章 潔

要旨

2013 年度に引き続き、今年度が 4 回目となる本プログラムは、長崎短期大学国際コミュニケーション学科に在籍しているミャンマー、ベトナム、中国、韓国、フィリピンの留学生計 15 名を、長崎県東彼杵郡波佐見町岳辺田郷にある亀井山東前寺（真言宗）に派遣し、座禅、写経、カルタ、お琴などの日本文化体験をするものである。本プログラムを通して、地域住民と留学生たちに文化交流・国際理解の機会や場の提供を行うとともに、留学生を主体とする民間レベルでの国際交流活動の一層の促進を図りたい。

キーワード

日本文化体験 学校危機管理

実績報告

I. 参加留学生構成（国別、性別）

国籍	男（名）	女（名）	計（名）
ミャンマー	6	0	6
ベトナム	4	1	5
中国	2	0	2
韓国	1	0	1
フィリピン	0	1	1
合計	13	2	15

II. プログラム日程表

2016 年 10 月 4 日（火曜日）

時間	内容	備考
11:00	長崎短期大学出発	
13:00	波佐見町永尾郷木場山到着 (榎の苗木植え体験、原木椎茸栽培場見学)	日本の森の名人 100 人に認定された楠本和義さんの話を聞き、日本の農業・林業について学習する。
14:30	木場山出発	
15:00	西山製陶所到着	製陶所見学、絵付け体験
16:00	西山製陶所出発	
16:00	東前寺到着	「入門式」、留学生代表の挨拶
16:15	境内清掃、食事の準備	地域の住民と一緒に

時間	内容	備考
17:00	食事会	地域の住民と一緒に
17:40	片付け	地域の住民と一緒に
18:00	東前寺出発	
19:00	長崎短期大学到着	解散

2016年10月18日（火曜日）

時間	内容	備考
09:00	長崎短期大学出発	
10:00	東前寺到着	
10:05	勤行、座禅・写経体験	
10:30	留学生によるミニ茶会	短大の授業「茶道文化」（鎮信流）で勉強したお茶の飲み方、お菓子の取り方を地域の住民たちに教える。
11:00	日本文化体験	カルタ、お琴、波佐見音頭
11:40	東前寺出発	
13:00	武雄市図書館到着	武雄市図書館、武雄神社見学
14:00	武雄市図書館出発	
16:00	長崎短期大学到着	解散

Ⅲ. 学外活動と危機管理

今年度の日本文化体験実施予定日は当初、2016年10月4日（火曜日）と10月5日（水曜日）の両日であったが、台風18号の影響のため、日程を変更せざるを得ないということになった。2016年10月4日付の西日本新聞朝刊には、以下のような台風情報が掲載されていた。

「猛烈な台風18号は3日、日本列島の南海上を北北西に進み、暴風域を伴って沖縄県に接近した。気象庁は数十年に1度の災害が予想されるとして、沖縄本島地方に大雨、暴風、波浪、高潮の特別警報を発表。九州北部には4日夜から5日昼にかけ、暴風域を伴ったまま接近する恐れがあり、警戒を呼び掛けている。…九州北部は4日夕に強風域に入り、最大瞬間風速は西海上で35メートル、対馬海峡と有明海で25メートルが予想される。九州に最接近するのは5日とみられ、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る可能性もある。」

以上の台風接近予報を受けて、学生の安全を考慮し、直ちに本学の国際コミュニケーション学科長に報告した。また、実施先の東前寺と相談した結果、5日のプログラム実施を10月18日（火曜日）に延期することに決定した。無論、プログラム実施の延期に伴うキャンセル料などが生じたが、学校危機管理の観点からやむを得ないと思われる。（表1）

学校危機管理とは、子どもたちや教職員などの生命や心身等に危害をもたらす様々な危機を未然に防止するとともに、万一、事件・事故災害が発生した場合に、被害を最小限にするために、適切かつ迅速に対処することである。（「学校における防犯教室等実践事例集」平成18年3月文部科学省等から）

学外活動は、学生たちの健やかな成長と自己実現を目指して学習活動を学校の外で行うものであり、いうまでもなく、その基盤として安全・安心な環境が確保されている必要がある。そのなかで、事件・事故・災害などを防止・減災するための内容を盛り込み、災害安全教育をも推し進めなければならない。

表1 危機管理のプロセス

事前の危機管理	緊急事態発生時の危機管理	事後の危機管理
リスク・マネジメント	クライシス・マネジメント	クライシス・マネジメント
未然防止（平常時）の対応	緊急時の初動・初期対応	緊急時の中・長期対応
<ul style="list-style-type: none"> ◆危機の予知・予測 ◆危機の未然防止 ◆日常の安全確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◆緊急時の安全確保 ◆被害を最小限に抑止 ◆ASD・PTSD への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆再発防止 ◆通常生活の再開 ◆心のケア

資料：『学校危機管理マニュアル作成の手引き』P2, 長野県教育委員会, 平成24年1月

2016年10月11日（火曜日）、短大のホームルームで、プログラム参加者の留学生たちに今回の延期に関する経緯や理由を話し、危機管理について説明した。また、自国における学校危機管理について調べてもらい、レポートにまとめて提出させた。

10月18日（火曜日）、東前寺でのプログラムがすべて終了したあと（写真1）、はじめての試みとして、留学生たちを武雄市図書館、武雄神社に連れて行った。2013年にリニューアルオープンした武雄市図書館は、指定管理者制度を使用して、民間企業であるカルチャ・コンビニエンス・クラブ（CCC）が運営している。また、図書館の中にTSUTAYAやスターバックスが入っていることで日本全国の話題にもなっている。インターネットや携帯電話が普及してきたことや、趣味・娯楽の多様化などによって、本を読む人や図書館に行く人が年々減っていく。留学生たちに、日本の図書館の新しいスタイルを見せることによって、利用増加を促したい。そして、735年に創建された武雄神社の境内には、樹齢3000年の大楠が佇んでいる。留学生たちを引率して、鳥居をくぐり石段を上った。境内を案内している間に、神社の由緒書きを読ませ、「源頼朝」、「流鏝馬」、「七五三」などについて解説した。（写真2）



写真1 留学生を見送る地域住民（東前寺）

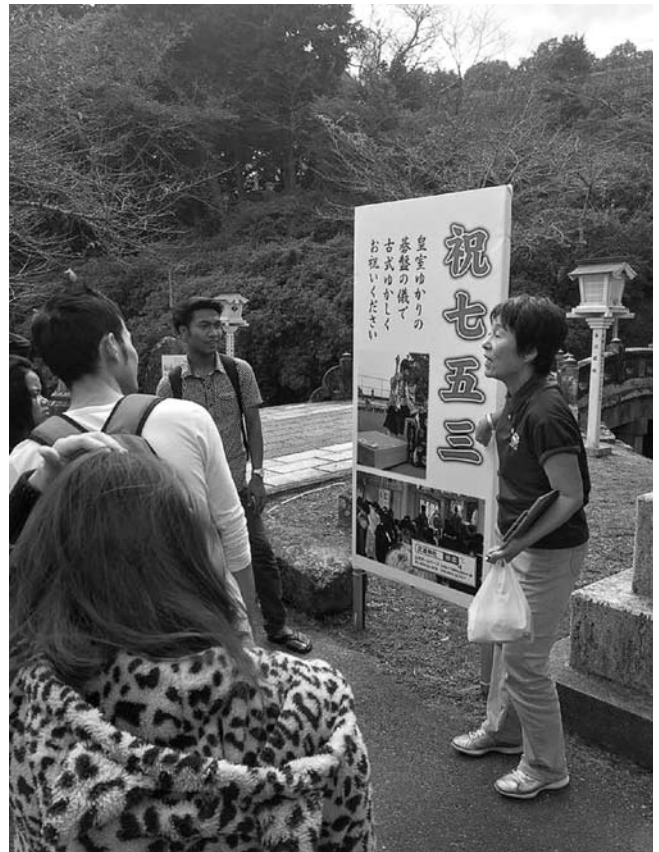


写真2 留学生に「七五三」を説明（武雄神社）

(2016年10月18日章撮影)

IV. まとめ

2017年3月27日、栃木県那須町湯本的那須温泉ファミリースキー場で雪崩が発生し、登山の講習会に参加していた県立大田原高校の男子生徒7人と教員1人の計8人が搬送先の病院で死亡した。分厚い積雪の中、雪崩注意報を知りながら、引率教諭が「絶対安全」と判断して実施された訓練が惨事を招いた。

栃木・那須の雪崩事故に滲む危機管理の甘さが追及されている昨今、学校の危機管理体制の重要性を再確認する必要がある。長崎短期大学は、平成27年度の「大学教育再生加速プログラム（AP事業）」に日本全国の短期大学で唯一採用された学校である。AP事業のなかで、様々な学外学修プログラムが実施されている。これからも、学校危機管理を徹底し、学生の安全を守り、そして学校に対する社会的信用・信頼を守り、安全・安心な学校づくりに努めなければならない。